

# 短編アニメーション映画の家の描写内容にみる抽象化された居住空間のイメージ

The Image of Living Space in the Video Contents of Short Animated Films Set in the Home

奥山研究室 22M50672 顧文 (Wen, Gu)

**1.序** 短編アニメーション映画は、限られた時間でストーリーを簡潔に表現するメディアである。なかでも、日常生活を主題とする作品では、家具や調度品のみで表現された室内や、輪郭を描くことなく窓のみで表現された外観といった、家の様々な場所が抽象的に描かれている。さらに、それら個々の場所や周辺環境を描いたシーンが、カメラワークやシーンの配列といった形式的修辭によって統合された作品全体からは、家を中心とした人々の暮らしのイメージの一端を読みとることができると考えられる。そこで本研究では、短編アニメーションにみられる家を中心とした生活空間の描写内容と描写形式を検討することで、抽象化された居住空間のイメージの形成の枠組みを明らかにすることを目的とする。

## 2.短編アニメーション映画の描写内容と描写形式

資料とした短編アニメーション映画<sup>1)</sup>では、家を中心とした日常生活の舞台となる空間描写を読み取ることができる。ここでは図1の分析例のように、場面が転換するまでの一連の空間を舞台と定義し、その描写内容と描写表現(以下、具体性)をあわせて検討する。

**2-1. 舞台の描写内容** まず、日常生活において背景となる舞台の描写内容を検討した結果、主な生活が行われる《主人公の家》、都市や自然などの《周辺》の2つに大別することができた。《主人公の家》は居間、寝室、台所といった10の用途から構成される【室内】と家を外から描写する【外観】か

ら捉えた。【室内】では、1つの舞台が複数の用途の組み合わせとして表現されるものがみられた。《周辺》は主人公以外の家である【他人の家】、商業施設や公園などの【都市環境】、平地や水辺などの【自然環境】から捉えた(図2)。

**2-2. 舞台の具体性** アニメーション特有の表現として、天井や壁の分節線が省略される場合があり、これを描写内容の具体性を表現するものとして捉えた。そこで、居住空間のイメージを最も代表的に示すと考えられる《主人公の家》についてその具体性検討する(図3)。【室内】では、天井、床、壁の分節線が3本以上のものを【分節あり】、2本以下のものを【分節なし】とした。【外観】では、全体の輪郭線が描写されているものを【全体】、一部のみが描写されているものを【部分】とした。また、同一の舞台が複数登場する作品では、具体性の異なる描写が同時に提示される場合がみられ、これを【混在】とした。

### 2-3. 舞台の描写内容と具体性の関係

舞台の描写内容と具体性との対応関係を作品単位で検討した(図4)。【室内】を単一の舞台で表現する場合を((一室))、複数の場合を((多室))として、その用途についてみると、((一室))は居間、寝室、食堂、台所のみで構成されており、特に居間みの作品が多くみられた。これは、居間が家庭内での生活の中心であり、家を象徴する空間であることを示しているものと考えられる。複数の舞台で構成されている((多

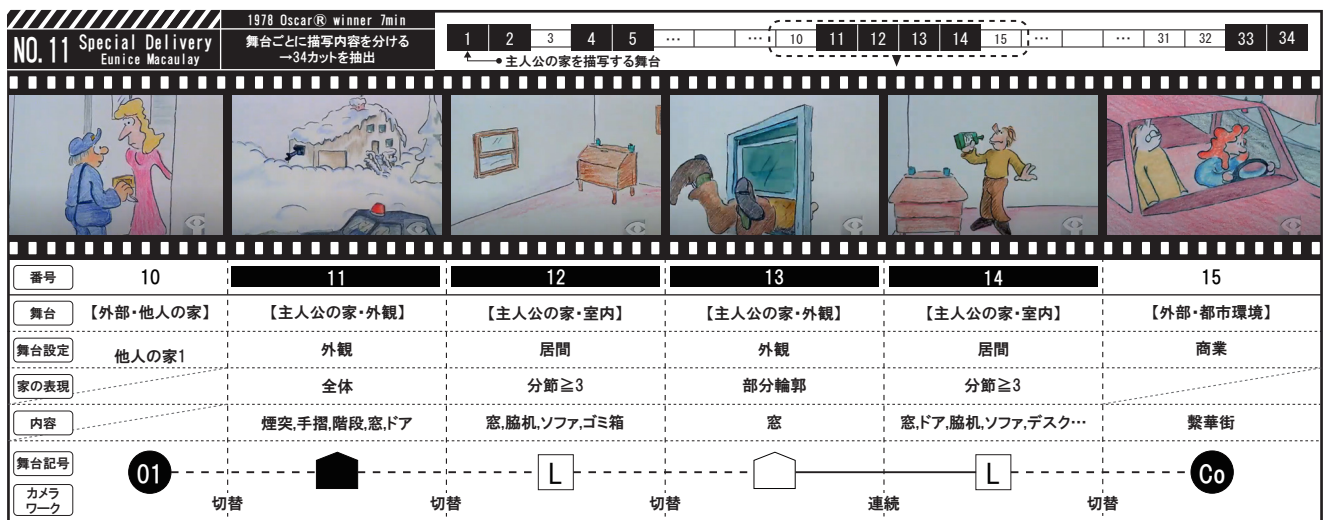


図1.分析例

室))の場合、寝室において【混在】が多くみられ、舞台が増加すると家のプライベートな空間描写が具体化される傾向があるといえる。また、1つの舞台に用途が複合する場合は、【分節あり】と【混在】が多くみられ、用途の数と室内空間の表現の具体度に相関を指摘できる。【外観】を単数の舞台で表現する場合は、窓やドアなどの開口部といった【部分】の描写が多くみられ、家の外観に対して全体の形より内外の接続が重視されると考えられる。

次に《周辺》に着目すると、【都市環境】が【自然環境】より多く、【都市環境】のなかでも商業(45/79)と日常生活(46/79)の描写が多く、図書館や美術館などの文化(23/114)に対して接続するものが少なかった。ここでは家を中心の生活の広がりにおいて文化活動より日常生活と商業活動の展開が相対的に多く見られ、現代の暮らしの重心は実用性や機能性に重きを置いている傾向が見られる。また、【自然環境】の中には広い平地(30/79)の表現が最も多くみられ、起伏のある山や丘などの描写が少なかった(15/79)。

### 3.描写内容による接続形式

#### 3-1.カメラワークによる接続形式

前章で検討した舞台同士の関係について、カメラワークの表現からその接続形式を定義した。まず、舞台の前後をズームやパンなどによって遷移することで、複数の舞台を一連のシークエンスとして描写するものを<連続>、一方舞台の前後に暗転やカットなどを挿入する<切替>として大別した。また、舞台間の接続形式で<連続>と<切替>をともに示す場合は、空間の関連性が強く示される<連続>のみを捉えた(図5)。

3-2.家の接続形式 室内×室内の接続形式では、【室内】の接続形式は((一室))の場合と((多室))の場合に分けられる。((多室))の場合は舞台の関連性の弱い<切替><連続>の表現と舞台の関連の強い<切替≒連続>の表現がみられる。ここでは<切替≒連続>の接続形式が多くみられ(28/50)、家の中では室同士の関連性が重視される傾向にあると言える(図7)。

舞台	舞台設定	内容	記号
【室内】 880	居間 L	ソファ	■
	寝室 B	ベッド	
	食堂 D	食卓	
	台所 K	キッチンセット	
	浴室 Y	バス、シャワー	
	便所 T	便座	
	仕事部屋 H	仕事用具	
	倉庫 W	物品	
	廊下 S	玄関扉	
	無 N	なし	
【外観】 403	...	■	
【他人の家】 245	...	■	
【都市環境】 337	商業 Co	レストラン、繁華街...	●
	文化 C	教会堂、墓地、美術館...	
	日常生活 L	病院、郵便局、公園...	
	平地 G	草原、荒野、野良...	
【自然環境】 298	起伏 Ud	山中、山中の森...	○
	水 W	岸辺、水上、水中、島...	
	空 Sk	空中、宇宙	
	無 N	なし	

図2.舞台の描写内容

【室内】	【分節あり】 507	【分節なし】 373
	分節線 ≥ 3 ■	分節線 ≤ 2 □
【混在】	同じ室に2つの表現ともある	
【外観】	【全体】 95	【部分】 308
	全体の形 ■	部分輪郭線 □
【混在】	同じ外観に2つの表現ともある	

図3.主人公の家の具体性

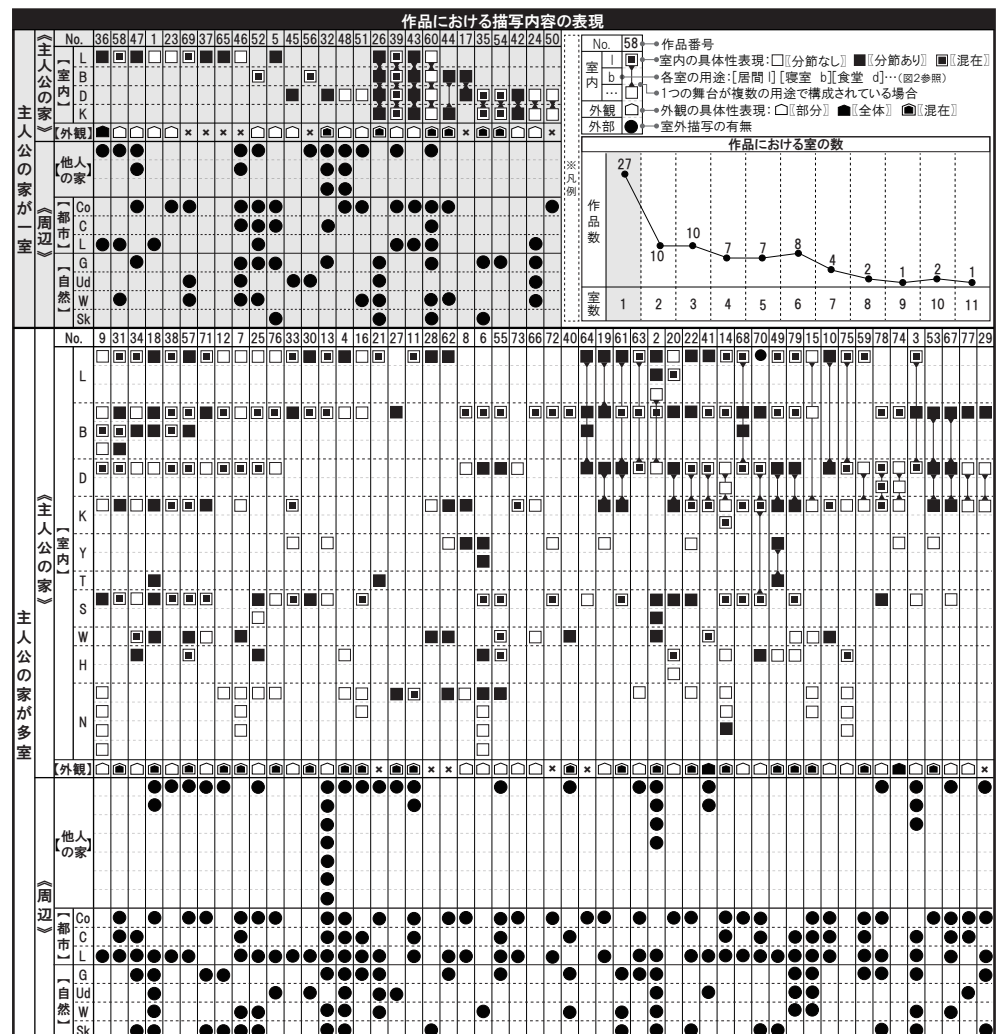


図4.作品における描写内容と具体性の関係

また【室内】と【外観】の接続形式についてみると、((一室))の場合には<切替>と<連続>に分類できるが、<連続>の表現がより多く見られ、家の内の表現が抽象化するほど外観との関連性が重視される傾向を指摘できる。((多室))の場合は<切替≤連続>より<切替><連続>の表現が多く見られ、家の内の表現が充実されるほど外観との関連性が弱まる傾向が見られた(図7)。

**3-3. 家と周辺の接続形式** 家と周辺の接続形式は[単一結合]と[複合結合]に分類した。[単一結合]では家の【室内】か【外観】の片方のみ接する接続形式であり、[複合結合]は家の【室内】と【外観】に両方とも接続するものである。その中でも[複合結合]の接続形式が多く見られ(46/73)、家全体と都市や自然との関係が表現されやすいと考えられる。

#### 4. 接続形式による家の表現の具体性

居住空間の描写において、室内外の接続性を捉えるため、2章で検討した家の具体度に関する表現から室内と外観との接続形式のみを抽出したものと(図7上段)、3章の接続形式との対応関係を示したものが図8である。

全体として、((一室))では[単一結合]と[複合結合]が同数程度みられ、((多室))では[複合結合]がより多くみられた。これは、一室のみを描写する場合は内部と外部が一对一の対応であり、複数の室内空間が描写されるものは、部屋数だけでなく周辺との接続形式についても、複雑化した内容をもつものと言える。

次に、家の接続形式について検討すると、((一室))において<連続>が高い割合を占めており、なかでも、[単一結合]では{分節あり}の表現が大半を占めているのに対し(5/7)、[複合結合]では{混在}が多くみられた(3/6)。つまり、家と周辺とが連続的に表現される場合には、室内が抽象的に描かれる傾向にあるといえ、これらは《主人公の家》を簡潔に描写して都市環境などの《周辺》を重点的に描く事例であると言える。また((多室))の過半を占める[複合結合]では、<切替><連続>、<切替≤連続>が、ともに[単一結合]よりも多くみられ、特に前者が顕著にみられた。このことは家の室内外の両方で、周辺環境との関係が描かれる場合は<切替>が多用されており、各諸室と外部との関係性が比較的希薄であることを示すものと考えられる。

舞台の描写内容の組み合わせのうち、家の外観表現について検討した結果、((多室))の<切替≤連続>では外観の部分と全体がともに描写される【混在】が多くみられた(12/19)。ここでは【分節なし】の事例がみられず、例えば部屋数の多いNo.31のように、居間・台所・寝室などのほぼすべ

ての部屋が【混在】であるとともに、外観全体の形を描写しているように、具体的な居住空間のイメージが示す典型といえる。

これに対して((多室))の<切替><連続>では、外観の{部分}のみ描写されるものが多くみられ(15/25)、例えばNo.13のように、各室同士の接続形式がすべて関連性の弱い<切替>であり、外観表現も抽象的かつ各室や《周辺》との繋がりもまだ希薄であることから、外部との関係性ではなく独立した室の集合によって家のイメージを構成するものと考えられる。

さらに、描写される室の用途に着目すると、((一室))の場合には用途の描写が極めて単純化されながら、食堂が特徴的に多くみられた(11/19)。これは、例えばNo.45のように、食堂のみを【分節あり】の表現として具体的に描くものである。このことから家の室内の表現において、食事という行為が生活の基盤として表現されやすいと推察できる。一方((多室))では、ほぼすべての資料で寝室がみられ(41/44)、例えばNo.31のように、3つ寝室が描かれ、他室と比べて寝室の表現が顕著に具体的であった。ここでは、様々な用途の室を具体的に表現する場合、プライベートな用途を持つ寝室を中心として描かれるという、居住空間の典型的なイメージが示されている。

**5. 結** 以上、短編アニメーションの家の描写内容にみる抽象化された居住空間のイメージを検討した。その結果、家の外観が室内に比べてより抽象的な表現で描かれる傾向が見られ、暮らしが展開される室内に焦点を当て、外観の表現はほぼ家の開口部に集中していた。また、家と周辺環境の関連が強く示されない場合、室内の用途は簡略化されながら、空間表現については具体度の高い居間が象徴的に表現されていた。また用途が多く描かれるほどパブリックからプライベートまで幅広い性格を持つ空間が描かれ、なかでもプライベートな空間である寝室が特に重視される傾向が見られた。これより、抽象化された居住空間のイメージにおいて、家内外における接続形式により、家の抽象度の対照的な居住空間のイメージを位置付けた。

註1) ここでは、1972 以後に受賞又はバネートされたアカデミー短編アニメーション映画と選定し、その中「house・home」というキーワードが、公式サイトで紹介文や映画中のラインの流れから明示され、かつ主人公の家が一つしかない79 作品を研究資料とした。

#### 参考文献

- 1) 『アニメ・マシーン』
- 2) 『メディア文化とく物語享受』仕掛けられたテレビ・アニメーション』
- 3) 『現代映画思想論の行方 ベンヤミン、ジョイスから黒澤明、宮崎駿まで』

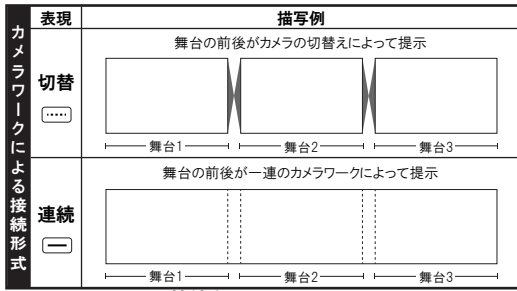


図5.カメラワークによる接続表現

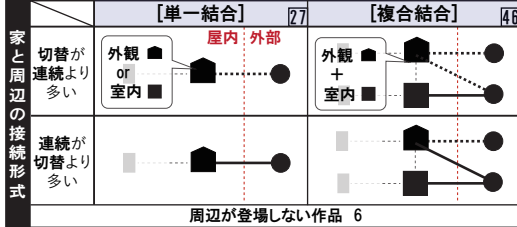


図6.家と外部の接続表現

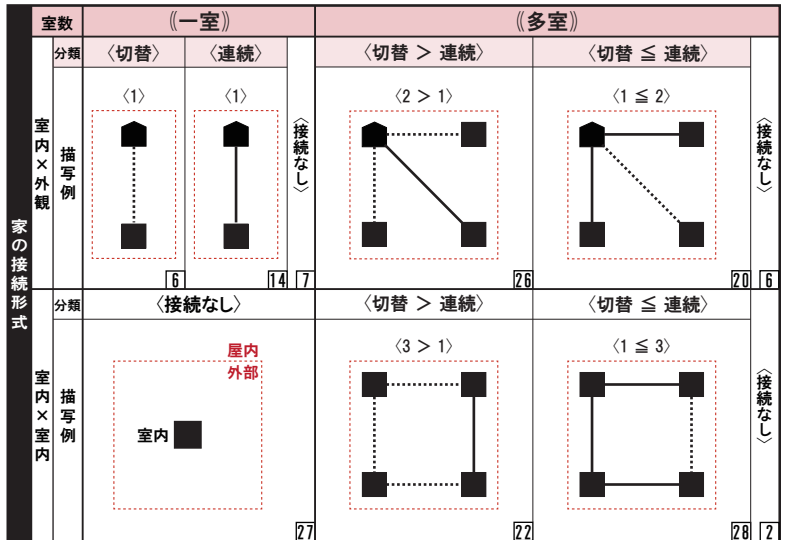


図7.家の接続表現

2章	一室 19		多室 44	
	3章		3章	
家と周辺の接続形式	[単一結合 19]		[複合結合 44]	
	No. 36 Runaway Brain		No. 67 Negative Space	
	No. 45 Humdrum		No. 73 Dcera (Daughter)	
	No. 39 The Old Lady And The Pigeons		No. 53 Peter & the Wolf	
	No. 48 When The Day Breaks		No. 59 Dimanche/Sunday	
	No. 13 Dream Doll		No. 31 The Sandman	
	No. 15 作品番号		No. 41 作品番号	
	No. 01 作品名		No. 61 作品名	
	No. 01 外観		No. 61 外観	
	No. 01 室内		No. 61 室内	
	No. 01 1つの舞台が複数の用途で構成		No. 61 1つの舞台が複数の用途で構成	
	No. 01 室内の用途設定		No. 61 室内の用途設定	
	No. 01 具体性		No. 61 具体性	

図8.抽象化された居住空間のイメージ